

#### 4. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

<応用生物科学部食品安全健康学科> (認定課程：高一種免(農業))

##### (1) 各段階における到達目標

| 履修年次 |    | 到達目標  |
|------|----|---|
| 年次   | 時期 |   |
| 1年次  | 前期 | 一社会人として常識的な考えや活動が遂行できる基礎を築くとともに、自分が教員として社会にどのように貢献したいかを考えさせ、将来の目標を明確にする。さらに基礎的専門科目の学修を通じて自然関係、人間関係および社会関係の幅広い教養的知識を身に付けるとともに農学とは何かについて学び、農業の社会的な意義や役割について理解する。<br>入学ガイダンス時に教職課程関連資料配布及び説明、4月教職説明会にて「教職課程履修案内」を配布し、教職課程履修に係る意欲向上を目指す。さらに、この学科の課程と教職課程との関連性についても理解させる。        |
|      | 後期 | 教職課程科目を配置し、教員としての基盤を形成させつつ、「教育」に対して個人の考えでなく、理論の積み重ねと行動力により物事を進める現実を十分に理解させるとともに、該当中心年齢だけでなく、幅広い年齢層、性格、行動の理解、補助できる能力を身に付ける。また、1年前期に引き続き、基礎的専門科目や実験科目を学修し、中等教育から大学レベルの基礎的知識を涵養させる。<br>履修カルテ配付による指導を実施し、教育者に求められる資質や能力についての確認および理解を目指す。  |
| 2年次  | 前期 | 1年次に続き、教育論をより高度に学び教育者としての理解を深める。さらに、微生物学や農産物を生化学的な視点で見る学や農学系化学などの教科科目を学んだり、実験を通じて、生物の実態とその役割を幅広く詳細に理解し、農学としての科学を具現化し、高等教育での農業という学を理解させる。<br>現職、元教員による講義、講演会、学校ボランティアに参加することで、教育現場の現状に関する理解を目指す。   |
|      | 後期 | 学生に対する具体的な対応能力の向上を目的として各種教育指導論を配置するとともに、食品に関わる微生物や食料の保蔵といったことにより、農業と関わりの深い試料について、教科科目、実験科目を通じて理解させる。また、農学においても必要な遺伝子レベルでの生物を学ぶことにより、化学、生物と結びついた農学を理解させる。以上のことから、課題解決能力を養成し、限りある資源を有効活用してより良い生活を送るための手法を理解させ、農業に関する諸問題を主体的かつ合理的に解決し、持続的かつ安定的な農業の発展を図る創造的な能力、実践できる能力を身に付けさせる。 |
| 3年次  | 前期 | 教育専門性を高めるとともに、多様な生徒に対してヒトとしての考えや行動を伝える能力向上を目指す。さらに、農産物に含まれる素材について、また農産物が生体にどのような影響を与えるのか、病的、生化学的、分子生物学的に理解させる。<br>教育自習指導の充実により、教育指導案の作成等、具体的な授業運営、校務分掌についての理解を目指す。  |
|      | 後期 | 農業に関する専門的知識・技術の習得にくわえ、専門高校における職業指導の役割と指導法を学び、専門分野を確立するためのスキルと知識を修得させる。教科科目では、食に関わる危険因子を学び、実験科目で深い理解を進める。また、農産物、さらにはその加工品の品質管理について、実際のメーカー等で実習し、理解を深める。<br>教育実習などを見据えて、農業高校教員の講義や講演会、各種ガイダンスを用意し、農業におけるスペシャリストとしての専門性の基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせる指導法を育成する。                         |
| 4年次  | 前期 | 教育実習に参加し、教職現場を体験するとともに教員として必要な資質を習得する。適宜、現場教員と教職課程教員や事務員による的確なサポートを行い、学生にフィードバックすることで、不足している知識や技能等を補う。さらに、「卒業論文」のための実験を開始し、その過程で理解力、調査能力、計画能力、実験能力(実行力)、考察力など各種能力の向上に努め、各科目の教育プログラムを組み立てる力もつけさせる。   |
|      | 後期 | 4年次前期に続き卒論研究を遂行し、最先端の科学に関する意識を涵養する。卒業論文の作成を通じて科学の営みを体現し、科学的な表現方法、プレゼンテーションの能力を身に付ける。<br>教職課程における学びの集大成を行うとともに、農業科教員に求められる資質と能力に必要な科学的に探究する能力と態度を育成する。農業に関する課題を見付け、自分自身や社会のものとして解決する態度と身に付けた知識と技術を活用する指導法の修得を目指す。  |